

九条だより 「第124号」 より

—連続講座「明治150年を考える」（1回目） 3月11日

「明治の美化」に欠けている視点は、「民衆、女性、アイヌ、アジア」

後藤守彦さんによる、2年ぶりの『日本の近現代史』の連続講演会が3月11日（日）に開かれました。40名近くの市民が詰めかけ、後藤さんの話に耳を傾けました。今年が「明治150年」ということで、無条件に美化されていることへの警鐘が鳴らされました。

後藤さんは、初めに現在の政局での「改憲」問題は、歴史の認識の仕方に通じる問題だと指摘します。「民衆、女性、アイヌ、アジア」という視点がその認識に欠けているといいます。そしてあらゆる点で、権威に利用するための「伝統の創造」＝「ねつ造」が行われたともいいます。「明治維新」は、1867年大政奉還、王政復古を経て1869年箱館戦争で終わりをつげますが、それ以降中央集権国家体制の形成にすすみ、その中で「天皇の復権」という「伝統の創造（ねつ造）」が行われていきます。「諸事神武創業の始めに」と権威づけされ、「一世一元」の採用、神道の国教化へとすすみます。

「日本」の権力者の「選択」は、1873年岩倉使節団の帰国によって、「脱亜入欧」（ヨーロッパ化）が鮮明となります。そして富国強兵へと舵が切られていきます。

同時に、自由民権運動が湧き上がります。それは「民選議院設立建白」から「国会期成同盟」へ、まさに国民的運動として発展していきます。これは当時の薩長藩閥政治を批判して、国民の政治参加を要求するものでした。1884年の「秩父事件」はその典型といえるものでした。また植木枝盛が『日本国国憲案』を作ったり、在野にあつては「五日市憲法草案」をはじめ全国80数箇所で行った案が作られていたといえます。とくに植木のそれは、不服従権、抵抗権、革命権など多岐にわたる、まさに画期的なものでした。時の政権はこれらを弾圧し秘密裏に、「大日本帝国」憲法を「欽定憲法」として1889年公布したのです。その特徴は天皇主権、制限選挙による議員、「臣民」への制限付き権利の付与にあります。そして1900年の教育勅語の制定に結びついていきます。日清、日露両戦争を経て、日本資本主義の発展、工業化が同時に急速にすすめられていきます。

後藤さんは、最後に、資本主義の矛盾の典型としての「足尾鉍毒事件（問題）」に触れます。同事件は、1890年の大洪水で渡良瀬川に流れ込んだ硫酸銅などの鉍毒の被害拡大を衆議院議員田中正造が帝国議会で告発、糾弾演説、1901年天皇への直訴、そして1907年谷中村への遊水池設置に最後まで抵抗した農民の家屋の強制破壊、1913年正造の死という変遷をたどります。それは環境破壊（廃村）・棄民（住民切り捨て）という意味で、現在のフクシマ（原発事故）の原型ともいえるものです。田中正造の思想は、人民意識、自治意識、人権思想や平和思想にあり、「民を殺すは国家を殺すなり。法を蔑（ないがしろ）にするは国家を蔑にするなり」と帝国議会での質問書にそれがよく現れています。天皇への直訴は、結局天皇に届けられることはなかったが、『謹奏』と題したその直訴状は今も佐野市の郷土資料館に保存されており、2015年現天皇が佐野市を訪れた際にそれを目にしたといえます。

<連続講座> 「明治150年」を考える -1-

3月11日(日)団地住民センターにおいて、38名の市民の皆さまの参加で、第67回例会を開催しました。

後藤さんは、「安倍首相が『2020年に新憲法施行をめざす。今年こそ、憲法のあるべき姿を国民にしっかり提示する』と言っていることと、明治150年を美化することは結びついていない」として、「改憲問題は歴史認識問題である」と言います。

その上で、明治美化論に欠落している視点として、民衆・アイヌ・女性・アジアの視点を上げました。

最初に、明治以前の江戸時代(1603年～1867年)の特徴を概観し、江戸幕府滅亡の要因と過程を振り返ります。

次に、明治の中央集権国家体制の形成について詳述しました。そして、国家形成の過程で、権力者が選択した針路を語りました。

一方、国民的運動としての自由民権運動の中で「五日市憲法」や植木枝盛らによる「日本国国憲案」などに見られるように、当時の国民が憲法について学び考え、数多くの憲法案ができたと言います。

しかし、権力者はそれらの動きを弾圧し、国民が作った憲法案を完全に無視したと強調しました。

その上で、大日本帝国憲法の成立過程と特徴について、詳しく語りました。

最後に、明治時代の工業化・資本主義化の特徴について述べました。

資本主義の矛盾の典型的な例として「足尾鉍毒事件」を取り上げ、これは「環境破壊(廃村)・棄民(住民切り捨て)」の大公害事件であり、フクシマ原発事故の原型であると断罪しました。

「足尾鉍毒事件」を糾弾し国家権力と闘った「田中正造」について、「田中正造について語らなければ、日本の近代化について語ったことにならない」と言われているとし、「田中正造」について学ぶことの意義を語りかけました。